

トルコギキョウ直播き栽培の二度切り適応性

小林 祐一・江川 孝二*

(福島県農業試験場会津支場・*福島県南会津農林事務所南郷普及所)

Adaptability for Double Harvesting of *Eustoma Grandiflorum* by Direct Sowing Culture

Yuichi KOBAYASHI and Koji EGAWA*

Aizu Branch, Fukushima Prefecture Agricultural Experiment Station *

*Fukushima Prefecture Minamiaizu District Agriculture and Forestry Office,

Nango Agricultural Extension Service Station

1 はじめに

トルコギキョウは直播き栽培を行うと、根系が良く発達し養水分の吸収力が高いため、一番花においては良品質の切り花が得られる^{1,2)}。この根系の発達が良いことは、二番花においても良品質の切り花生産が期待できる。そこで、直播きの二度切り栽培への適応性を検討した。

2 試験方法

試験は、1999年から2000年にかけて福島県会津農業センターの無加温パイプハウスでエクセルドルフィン(中晩生)を供試して、移植栽培との比較により行った。

直播き栽培は、1999年5月7日に播種し、一番花を1999年9月11日(平均収穫日)に収穫した株を用いた。移植栽培は、288穴のセルトレイを用いて1999年5月6日に播種、本葉2対葉展開時の1999年6月25日に定植し、一番花を1999年9月7日(平均収穫日)に収穫した株を用いた。栽植は床幅100cm、条間12cm、株間12cmの8条植えとした。供試株数は、1区当たり40株で2反復とした。基肥は、a当たり窒素1.0kg、りん酸1.5kg、加里0.8kg、堆肥300kgを施用した。また、追肥はa当たり窒素1.0kg、りん酸0.4kg、加里0.6kgを施用した。ハウスの温度は、1999年10月18日より2000年5月31日までは二重被覆とし、25℃で開放し20℃で閉め、管理した。一番花終了後の水分管理は、2000年4月2日まで無灌水とし、4月3日から出蕾までは適宜灌水をした。二番花の立茎整理は、2度行った。1回目の整理は、1株当たり2本とし1999年11月8日に行った。2回目の整理は、花茎が10~15cmに伸長した2000年3月28日に行った。栽植密度は、欠株を補うため1株当たり2本を上限とし、一番花と同数の㎡当たり69.4本とした。収穫は、5輪開花時に行った。

3 試験結果及び考察

(1) 二番花の出蕾期及び収穫期

二番花の出蕾期は、直播き栽培、移植栽培ともに6月19日、収穫盛期は直播き栽培が7月17日、移植栽培が7月18日であり出蕾や収穫時期に差はなく、栽培様式による違いは認められなかった(表1)。

(2) 二番花の切り花品質

直播き栽培は移植栽培と比較して、切り花長、切り花重、花蕾数が優り、ボリュームのある切り花が得られた(表2)。直播き栽培によって移植栽培よりもボリュームのある切り花が得られ切り花品質が優れていたのは、節数に差が認められないことから(表2)、生育期間の延長によるものではなく、根系が良く発達しているために養水分の吸収力が高かったことによるものと推察された。

表1 トルコギキョウの据え置き越冬株を利用した二度切り栽培での栽培様式の違いが二番花の出蕾期及び収穫期に及ぼす影響

栽培様式	二番花の出蕾期 (月日)	二番花の収穫期(月日)		
		始期	盛期	終期
直播き	6.19	7.14	7.17	7.21
移植	6.19	7.14	7.18	7.21

注. 1) 収穫: 5輪開花時

2) 収穫期: 始期は10%収穫時、盛期は50%収穫時、終期は90%収穫時

表2 トルコギキョウの据え置き越冬株を利用した二度切り栽培における栽培様式の違いが切り花品質に及ぼす影響

栽培様式	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	花蕾数 (輪)	節数 (節)
直播き	97.2	81.3	12.1	17.5
移植	88.4	67.1	9.5	17.1

(3) 二番花の出荷規格別割合

直播き栽培の出荷規格物割合は、2L級が91%、L級が6%、規格外が3%であった。一方、移植栽培は2L級が75%、L級が16%、規格外が9%であった。このように、直播き栽培は移植栽培に比べ上位規格の割合が高かった(図1)。

(4) 二番花の越冬株率と収量

越冬株率は、直播き栽培と移植栽培で差はなかった。また、二番花の収量も、直播き栽培と移植栽培で差はなかった。一番花の収穫本数に対する二番花の収穫本数は、直播

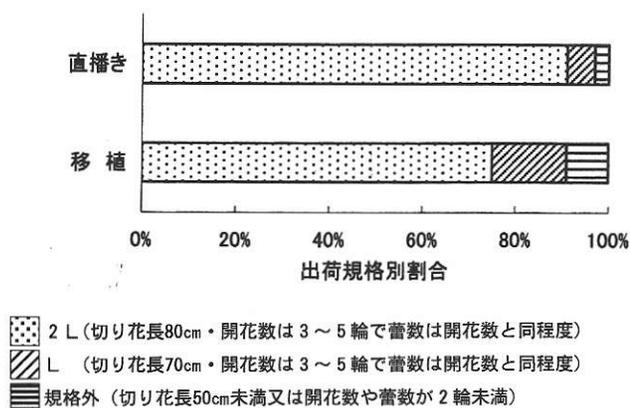


図1 トルコギキョウの据え置き越冬株を利用した二度切り栽培における栽培様式の違いが出荷規格別割合に及ぼす影響

表3 トルコギキョウの据え置き越冬株を利用した二度切り栽培における栽培様式の違いが越冬株率及び収量に及ぼす影響

栽培様式	越冬株率	一番花の収穫本数	二番花の収穫本数	B/A
	(%)	(本/m ²) (A)	(本/m ²) (B)	
直播き	97.2	64.2	69.4	1.08
移植	97.4	65.9	69.4	1.05

注. 越冬株率: 3月31日時点の残存株数/一番花の収穫株数×100

き栽培が1.08, 移植栽培が1.05といずれの栽培様式でも二番花の収量は, 一番花と同等であった(表3)。

4 ま と め

二番花の切り花品質は, 直播き栽培が移植栽培よりも切り花長が長く, 花蕾数が多いなど, ボリュームがあり高かった。また, 二番花の収量は, 一番花と同等となり, 直播き栽培においては移植栽培に比べ, 上位規格の割合が増加した。したがって, トルコギキョウの二度切り適応性は, 移植栽培よりも直播き栽培において高いと考えられた。

引用文献

- 1) 勝谷範敏, 原敬和. 1995. トルコギキョウの抑制栽培に関する研究. 第2報 直播き栽培による生育促進について. 園学雑 64(別2): 542-543.
- 2) 小林祐一, 武藤伝, 江川孝二, 浅沼顕. 2000. トルコギキョウの秋切り栽培における品質向上技術. 第3報 直播き栽培. 東北農業研究 53: 237-238.